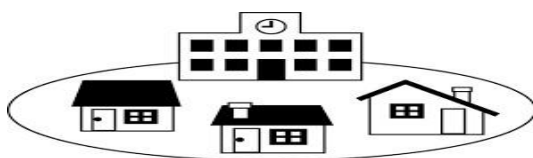


# とうせい コミスク便り



令和4年3月23日  
3月号

## 第4回学校運営協議会（書面会議）

2月17日（木）に本年度最後の学校運営協議会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症まん延防止重点措置により書面会議となりました。「活動報告」、「令和4年度学校経営」、「本協議会の活動総括」等に関わって承認されましたが、次のコメントがありました。「コロナ禍で大きな行事が制約を受ける中、工夫をしてこの一年間多くの活動が実施されたことは大変良かったと思います。」



### （1）活動報告

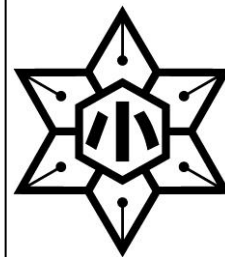
○今年度も新型コロナウイルス感染症蔓延により多くの活動ができませんでしたが、状況をみながら可能な範囲で実施しました。

- ・新1年生見守り下校
- ・交通安全教室見守り
- ・田んぼの学校 稲刈り体験、脱穀体験、お米パーティー
- ・スキー学習支援
- ・スノーラフティング乗車

### （2）令和4年度学校経営について

＜大きな変更点＞

- ・改訂した教育目標についての説明
- ・「東神楽町イノベーションプログラム」を生かした幼少、小小連携の強化と小中一貫教育の充実を図る。
- ・多面的な児童理解と適切な支援に向けて、生徒指導と特別支援に関わる委員会を統合し、「子ども理解委員会」を新設する。



### （3）本協議会の活動の総括 ※抜粋

○全体及び事務局、部会の活動について

- ・学校と家庭、地域、町教委の力強い連携で学校運営を推進している。
- ・協議会の働きが町教委に、また町教委の動きも当協議会にすぐに反映され効果的であった。
- ・議題が多く熟議が深まらなかったことがあったので、時には臨機応変な対応も必要である。
- ・「とうせいコミスク便り」を学校だより「東聖」と連動し定期的に発行していた。
- ・学校経営と学校運営協議会の総括を二分し適切な時期協議したのは良かった。総括名を「点検及び評価」に改称し、評価内容を議論したい。
- ・挨拶の取組は、今後の実践化・行動化に期待する。
- ・地域資源や人材の活用、伝統文化の継承によって、特色ある教育活動の推進を支えている。
- ・学校評価の依頼者に広がりが見られるとともに、評価内容の事前周知が図られていた。
- ・授業参観後の懇談会は、協議会活動の基盤となっている。

○課題と要望

- ・学校教育目標の改訂による子ども像や教育ビジョンの見直しと「共有化」
- ・存在感を高め、学校や地域等に頼られる学校運営協議会になるための力量アップ
- ・「熟議 in ひがしかぐら」の開催（町教委）